

# 大原庁舎等整備に関する住民説明会 議事録

## ■ 開催日時

令和8年1月22日(木) 19:00~21:00

## ■ 開催場所

離島振興総合センター（対面方式）

各公民館、竹富町役場石垣庁舎（オンライン）

## ■ 出席者

前泊町長、小濱政策推進課長、花城政策推進課長補佐、佐加伊防災危機管理課長、

黒島防災危機管理課長補佐、竹富町住民の皆様（約90名）

---

## ■ 次第

1.開会

2.出席者紹介

3.町長あいさつ

4.大原庁舎等整備に関する説明

(1) これまでの経緯・前回住民説明会の振り返り

(2) 基本設計概要（配布資料を基に説明）

5.質疑・応答

6.閉会

## 議事内容

### 1. 開会

花城政策推進課課長補佐より開会の挨拶

### 2. 出席者紹介

花城政策推進課課長補佐より出席者紹介

### 3. 町長あいさつ

前泊町長より挨拶

大原庁舎の整備については、建設位置を含め半世紀以上にわたり議論が重ねられてきました。令和4年5月に石垣庁舎が開庁し、現在は同庁舎で行政運営を行っていますが、大原の地においても、適正規模の庁舎整備は必要であるとの考えから、計画の見直しを進めてきました。今後は、石垣庁舎と大原庁舎の二拠点による行政運営を行い、大原庁舎については、行政機能に加え、防災拠点としての役割も担う施設として整備を進めていきます。建設費用は約58億円を見込んでおり、その大きな割合をシェルター機能が占めています。現在は基本設計の段階であり、今後も町民の皆さまに情報を示しながら、意見を伺い、事業を進めてまいります。

## 4.大原庁舎等整備に関する説明

(1)これまでの経緯・前回住民説明会の振り返り

小濱政策推進課長より説明

竹富町では、西表島大原地区にある庁舎や関連施設について、老朽化への対応と、防災機能の強化を目的とした整備事業を進めています。この計画は近年始まったものではなく、半世紀以上前から必要性が議論されてきたものです。

令和5年2月には、町内各地区を対象とした住民説明会を開催し、計画の概要を説明するとともに、多くのご意見をいただきました。その中では、

- 庁舎としての機能だけでなく、防災拠点として整備してほしい
- 災害時に避難できるシェルター機能を設けてほしい
- 救急車の配置や備蓄庫を充実させてほしい
- 景観に配慮した建物としてほしい

といった意見が多く出されました。

町ではこれらの意見を踏まえ、計画の見直しを行うとともに、国や関係機関と調整を重ねてきました。特に、公共施設にシェルター機能を設ける取り組みは国としても前例がなく、制度や基準の整備に時間を要しましたが、現在は国のガイドラインに基づいた計画づくりが進められています。

令和7年には、事業者の選定や基本協定の締結を行い、同年11月に基本設計に関する

契約を締結しました。現在は、施設の配置や機能、規模などを具体化する設計段階に入っています。

今回の住民説明会は、これまでの検討経緯と、現在の計画内容を改めて住民の皆さまにお伝えし、今後に向けたご意見を伺うために開催されたものです。町としては、引き続き、住民の安全・安心につながる施設となるよう、理解を得ながら事業を進めていく考えです。(基本設計概要等について、配布資料を基に説明)

## 5. 質疑・応答

質疑	応答
<p>(東部地区)</p> <p><b>収容人数について</b></p> <p>・収容人数が100人とされているが、観光客も含めると十分なのか。</p> <p>・大雨洪水警報など、自然災害時にもシェルターとして使用できるのか。</p>	<p>(前泊町長)</p> <p>シェルターは、有事の際だけでなく、大雨などの自然災害時の避難場所としても、運用を定めることで活用できると考えています。収容人数の100人は、有事の際に島外への一時避難を優先することを前提に、行政職員や消防団など、避難誘導のために現地に残る人員を想定した人数です。</p>

<p>(小浜公民館)</p> <p><b>① 職員配置人数について</b></p> <p>この庁舎には、職員は何人配置する予定でしょうか。</p> <p><b>② 職員の増員・配置方法について</b></p> <p>この人数は増員ということになりますか。また、石垣庁舎から職員を振り分け</p>	<p>(小浜政策推進課長)</p> <p>職員の配置については、現時点では10課で、11人から15人程度を見込んでいます。内訳としては、総務課1人と会計年度任用職員1人、税務課1人、まちづくり課1人、上下水道課1人と会計年度任用職員1人、農林水産課2人、健康づくり課1人、福祉支援課1人、防災危機管理課は職員1人と会計年度任用職員2人、こども未来課1人、自然観光課1人を想定しています。</p> <p>なお、これは現段階での想定であり、今後変更する可能性があります。</p> <p>現在、具体的な配置方法については議論中です。石垣庁舎からの配置も含め</p>
---	---

<p>る想定でしょうか。</p>	<p>て検討していますが、可能であれば地元での採用についても進められないか調整を行っているところです。今後、具体的な方針について議論が進んでいくものと考えています。</p>
<p>③ 400人規模の集会施設の活用について</p> <p>庁舎内に整備される約400人規模の集会施設は、今後どのように利用・活用する予定でしょうか。</p>	<p>離島振興総合センターは、法定耐用年数が残り4～5年となっており、その後継機能を持つ施設としても、大原庁舎等整備を検討しています。</p> <p>このホールについては、東部地区の二十歳を祝う式典や介護関連行事、役場の説明会などの開催を想定しています。また、企業誘致の場として、会合や打ち合わせなどに利用できることも考えています。加えて、地域活性化のための施設として整備するとともに、台風などの自然災害時には防災拠点施</p>

<p>④ 東部地区の人口と避難想定について</p> <p>東部地区の住民は、現在どのくらいの数 ですか。また、災害時に防災拠点として何 人程度が避難できる想定でしょうか。</p>	<p>設としての活用も検討しています。</p> <p>令和7年12月末現在で、西表東部地区 の人口は約870人となっています。そ のうち、多くの方が施設で避難できる ものと考えています。</p> <p>特に、大原地区の人口は約300人余り であり、大原地区の住民については、 全員が避難できる想定です。一方、豊 原や大富など、距離のある地区につい ては、それぞれの地区ごとの防災拠点 がありますので、今後は各地区との連 携を図りながら、どこに避難するかに ついて議論を深めていくことになる と考えています。</p>
<p>(波照間公民館)</p> <p>① 事業費に対する町民負担と維持費につ いて</p>	<p>(小濱政策推進課長)</p> <p>本事業の事業費については、全体のお おむね8割を国庫補助金で賄う予定で</p>

<p>大変大きな金額の事業であり、補助事業の確保も大変だったと思います。</p> <p>この事業費の中で、完成後の年間の維持費はどの程度になるのでしょうか。また、その維持費は町民が負担することになるのでしょうか。</p> <p><b>② 資材高騰等による事業費増加の可能性について</b></p> <p>今後、資材高騰などが進んだ場合、現在の予算で本当に建設できるのか確認したいです。</p>	<p>す。また、そのうち約2割強については起債を活用し、交付税措置により戻ってくる見込みです。</p> <p>これらを踏まえ、町民の実質的な負担は、全体の約9%、金額としては約5億円余りを想定しています。</p> <p>今回の事業費の積算については、国の積算単価を基に策定しており、事業者からの提案も踏まえた内容となっています。西表での事業実施という点を考慮し、現時点ではやや高めに積算していますが、今後、事業を進める中で実績に応じて減額していく方法を検討しています。現段階では、これ以上事業費が上がる見込みはないと考えています</p>
--	--

<p>(東部地区)</p> <p><b>屋上避難所の高さおよび備蓄・収容スペースについて</b></p> <p>屋上避難所は津波時の利用を想定しているのでしょうか。また、高さはどの程度になりますか。あわせて、約700人が避難する場合、テントや水などの備蓄スペースは確保されていますか。</p>	<p>(小濱政策推進課長)</p> <p>屋上の高さについては現在調整中ですが、屋上階の下にホールを設ける計画であり、天井高を確保することから、屋上はさらに高くなる見込みです。敷地の海拔約12メートルに加え、十数メートルの高さを確保できると考えています。具体的な高さが決まり次第、お知らせします。</p> <p>テントや飲料水については、屋上階にテント保管用の部屋を設ける計画です。災害時には、備蓄物資を活用し、避難者が協力してテントを設営する運用を想定しています</p>
<p>(東部地区)</p> <p><b>地下備蓄品の使用および屋上での備蓄について</b></p>	<p>(前泊町長)</p> <p>地下にも備蓄は行いますが、緊急避難時に対応できるよう、一定量の備蓄品</p>

<p>地下に備蓄しているものは、避難時には使えないのでしょうか。</p>	<p>は上階にも配置する必要があると考えています。屋上のテント保管場所には、水など最低限の物資を置く予定です。</p> <p>また、テントについても、従来の形だけでなく、タープのように日陰を確保できる形状も検討しており、屋上には最低限の飲料水や簡易トイレを備える方向で、現在の基本設計の内容を実施設計に反映していきたいと考えています。</p>
<p>(白浜公民館)</p> <p>① 通信環境と施設機能について</p> <p>現在、電波状況が不安定だが、立派な施設を整備しても本当に機能するのか不安がある。</p>	<p>(前泊町長)</p> <p>現在の通信状況は、離島振興総合センターの古い機器からの接続によるものです。町内 21 公民館には既にオンライン環境を整備しており、今回は会場設備による影響であるためご理解ください。</p>

<p><b>② 年間の維持管理費について</b></p> <p>完成後の年間の維持管理費はどの程度を見込んでいますか。</p>	<p>(小濱政策推進課長)</p> <p>現時点では、年間の維持管理費として約2,600万円を見込んでいます。電気設備や機械設備の維持管理費のほか、警備費用が含まれる可能性もあります。</p>
<p><b>③ 集会施設と世界遺産センターとの関係について</b></p> <p>世界遺産センターにも集会スペースがあると聞いていますが、同規模の集会施設を整備する必要があるのでしょうか</p>	<p>世界遺産センターの集会スペースは、小規模な会議が可能な程度であり、二十歳を祝う式典や大規模な会合、催し物を行える規模ではありません。そのため、大原庁舎の集会スペースを活用する想定としています。</p>
<p><b>④ 大規模集会の実績と必要性について</b></p> <p>これまで、そこまでの収容人数が必要な催しは実際にあったのでしょうか。</p>	<p>二十歳を祝う式典のほか、修学旅行生の昼食対応、各種会合などの実績を調査し、今後も必要性があると見込んで</p>

<p>⑤ 調理室の設置目的について</p> <p>集会施設に隣接する調理室は、どのような目的で設置するのですか。</p> <p>⑥ 利用対象地域について</p> <p>この施設は東部地区専用でしょうか。西部の住民も利用できますか。</p>	<p>設計に反映しています。</p> <p>現在の離島振興総合センターでも、調理室を活用した食事提供の実績があります。新しい集会施設においても、各種イベント等で簡易な調理ができるよう設置する予定です。</p> <p>(前泊町長)</p> <p>東部地区に限らず、西部地区や西表島以外の町民も利用できます。町民全体が利用できる施設として整備する考えです。</p>
<p>(浦内公民館)</p> <p>観光客を含めた避難想定について</p> <p>大原周辺には観光客が多く滞在する時期があります。有事や災害時に、観光客が避難に加わることは、どの程度想定している</p>	<p>(前泊町長)</p> <p>観光客の人数を正確に想定することは難しく、本施設のみで全員を収容することは想定していません。状況に応じて、船会社との連携や自衛隊への災害</p>

<p>のでしょうか。</p>	<p>派遣要請など、他の手段も含めて対応していく必要があると考えています。</p>
<p>(竹富公民館)</p> <p>① 救急対応スペースについて</p> <p>救急車両が入り、防災施設でもあるとのことですが、救護や応急処置を行うための専用の部屋は設けられているのでしょうか。</p> <p>② シェルター内の機械室配置について</p> <p>シェルター内に機械室が多く配置されて</p>	<p>(前泊町長／小濱政策推進課長)</p> <p>一般的な急患については、診療所への搬送、または高速船やヘリコプターで石垣島へ搬送し、八重山病院へ引き継ぐことを基本としています。本施設は、救急車の待機・出動拠点であり、施設内での常設の処置は想定していません。ただし、診療所との連携や、地下のシェルターの一部を処置スペースとして転用できないかについては、今後の実施設計の中で柔軟に検討していきます。</p> <p>(小濱政策推進課長)</p> <p>シェルターに関する国のガイドライン</p>

<p>いるように見えますが、建物外に設けることはできないのでしょうか。</p>	<p>に基づき、非常用電源室を含む機械室は、堅牢な建物内部に設置する必要があるため、現在の配置計画としています。</p>
<p>(黒島公民館)</p> <p><b>起債額・町民負担および維持管理費について</b></p> <p>起債額が約12億円で、そのうち約7億円が戻り、町民負担が約5億円との説明でした。人口や世帯数が少ない中で、1世帯あたりの負担はどの程度になるのでしょうか。また、年間約2,600万円の維持管理費も町民負担となるのか心配しています</p>	<p>(小濱政策推進課長)</p> <p>起債の償還については、25年から30年程度の長期で行う予定です。現時点では詳細なシミュレーションはこれからですが、年間の返済額は数千万円規模になると見込んでいます。</p> <p>また、国からの交付税措置による戻りも想定しており、住民の皆さまの負担が過度に大きくならないよう、さまざまな財源を組み合わせ対応していきたいと考えています。</p>

<p>(竹富公民館)</p> <p>シェルター整備の必要性と対象範囲について</p> <p>町民の負担増を抑えてほしいと思います。</p> <p>また、シェルターの建設費が大きいように感じます。西表島以外の離島住民が利用する可能性は低いのではないかと思います。ですが、本当にこれだけの規模が必要なのでしょうか。</p>	<p>(前泊町長)</p> <p>大原庁舎の地下に整備する約 100 人規模のシェルターは、西表島の住民を想定したものです。公の施設を整備する際に、国の方針としてシェルター機能を併せて整備できないかという考えのもと、国と協議を進めています。</p> <p>一方で、他の島々におけるシェルターの在り方については、今後、別途議論していきます。</p>
<p>(東部地区)</p> <p>① 職員の執務スペースについて</p> <p>職員を 11～15 人配置するとのことですが、現在の計画スペースで十分な就業空間は確保されているのでしょうか。</p>	<p>(前泊町長)</p> <p>現時点で想定している 11～15 人については、業務に支障が出ないよう、十分な執務スペースを確保しています。今後、人員が増えた場合には、地下のシェルター機能の一部を活用することも検討できると考えています。</p>

<p>② 集会ホールの規模および可動式設備について</p> <p>約 400 人規模のホールについて、可動式や格納可能な椅子を設置する考えはありますか。</p>	<p>ホールは西部地区のわいわいホールと同程度の広さを確保しています。可動式設備については後付けも可能ですが、初期導入すると工事費が増加するため、まずは防災拠点として避難時に広く使える空間を優先して整備します。必要に応じて、将来的な導入について費用を含め検討していきます。</p>
<p>(小浜公民館)</p> <p>事業費内訳・基金の残高および使い道について</p> <p>総事業費約 57 億円のうち、補助金や措置額を差し引いた町負担や、現在の基金残高、残る基金の使い道はどのように考えていますか。</p>	<p>(小浜政策推進課長)</p> <p>現在、庁舎建設基金の残高は約 7 億 3 千万円です。町負担は約 5 億円余りを見込んでいますが、基金を一度に充てるのではなく、起債を 20～30 年で償還し、年間の必要額に応じて基金や交付税を活用しながら対応していく考えです。なお、年間の維持管理費は約 2,600</p>

	<p>万円を見込んでおり、特にシェルター機能に伴う換気や除湿などが主な要因となります。国策として整備する施設であることから、今後は交付税や特別交付税による支援も国に求めています。</p>
<p>(東部地区)</p> <p>シェルターの耐久性および地下構造について</p> <p>シェルターは爆風などにも耐えられる構造なのでしょうか。また、地下はどの程度の深さになりますか。</p>	<p>(前泊町長)</p> <p>シェルターについては、国が定めた基準や設計指針に基づき、壁の厚さなど一定の耐久性を確保した、避難を目的とする臨時的な施設として整備します。地下については、極端に深く掘るものではなく、一般的な地下構造で、上部にも十分な厚みを持たせた設計としています。</p>

<p>(東部地区)</p> <p><b>防災拠点としての庁舎機能と二拠点行政について</b></p> <p>石垣庁舎は海拔が低く、大規模災害時には行政機能が麻痺する可能性があります。</p> <p>その場合に、大原庁舎を拠点として行政サービスを継続する体制が必要ではないでしょうか。</p>	<p>(前泊町長)</p> <p>石垣庁舎は海拔が低い立地であることを踏まえ、石垣庁舎と大原庁舎の二拠点体制による行政運営を進めています。</p> <p>災害時には、石垣市と締結している災害応援協定に基づき、石垣市役所の一角に対策本部を設置する体制も整えています。今後は、一極集中を避けた分散型の危機管理を行い、大原庁舎の機能拡充やシェルターの活用も含めて行政機能の継続に取り組んでいきます。</p>
<p>(祖内公民館)</p> <p><b>① 災害時・有事における備蓄品および避難生活用物品について</b></p> <p>災害時や有事の際に想定している備蓄品や、避難用・避難生活用の物品や道具の内</p>	<p>(前泊町長／小濱政策推進課長)</p> <p>現時点では、備蓄品や避難生活用物品の具体的な内容について、十分に整理できていない状況です。</p> <p>今後、大原庁舎に整備予定のシェルタ</p>

容について教えてください。

一機能や避難機能とあわせて、防災担当課と連携しながら、内容を検討していきたいと考えています。

**② 職員配置に伴う職員宿舎の整備について**

て

職員配置が11人から15人程度とのことですが、職員宿舎の建設予定や整備の考え方について教えてください。

職員については、できるだけ地元採用を基本とし、島に定着して働いてもらうことを考えています。そのうえで、必要に応じて大原地区や近隣地域で職員宿舎の整備を検討しています。

将来的に職員数が増加した場合でも対応できるよう、柔軟な運用や整備の余地を持たせていきたいと考えています。

**③ 避難者増加時の屋外対応および通信手段の確保について**

段の確保について

災害時には多くの住民が庁舎周辺に集まることが想定されますが、庁舎内に収ま

避難者が増えた場合の対応について

は、平時のシェルターの利用方法も含めて、今後検討していきたいと考えています。また、災害時の通信手段につ

<p>らない場合のテント設置などの屋外対応についての考えを教えてください。また、災害時・有事における通信手段について、複数確保する考えはありますか。</p>	<p>いては、あらゆる手段を活用することが重要であり、衛星通信の活用も含め、防災の観点から進めていきたいと考えています。</p>
<p>(祖内公民館)</p> <p><b>屋上避難スペースの設備および庁舎周辺の活用について</b></p> <p>屋上には約700人を収容できる避難スペースがありますが、トイレが設置されていません。</p> <p>多くの避難者が集まった場合、1階トイレの使用や、屋上へのトイレ・給排水設備の整備は想定されていますか。</p> <p>また、災害時に庁舎周辺へ人や車両が集中した場合、建物裏側へのテント設置や、かまどとして利用できるベンチの設置についての考えを教えてください。</p> <p>あわせて、庁舎右隣の建物は世界自然遺</p>	<p>(前泊町長)</p> <p>屋上の給排水設備やトイレについては、現在は基本設計段階のため、今後の実施設計で検討していきます。常設トイレか簡易トイレかについても、意見を踏まえて判断します。</p> <p>また、1階駐車場や建物裏側のスペースについても、有効活用を検討します。</p> <p>隣接施設は世界自然遺産センターを予定しています。</p> <p>避難拠点は分散を基本とし、既存施設も活用しながら、大原庁舎を防災拠点の一つとして整備していきます。</p>

<p>産センターの予定でしょうか。</p>	
<p>(白浜公民館)</p> <p><b>防災拠点としての安全性およびシェルター整備の考え方について</b></p> <p>本施設は防災拠点として避難施設を併用するとしていますが、<b>海拔 12.3 メートルの立地で、津波についてはどの程度を想定して設計されているのでしょうか。</b></p> <p>また、<b>明和の大津波のような過去の被害を踏まえた場合、この場所を防災拠点とし、シェルターを整備する意義について</b>どのように考えていますか。</p>	<p>(前泊町長)</p> <p>災害の種類によって、防災拠点の役割や活用方法は異なると考えています。</p> <p>明和の大津波のような大規模津波の場合、高台への避難を最優先とします。本施設は津波のみを想定したのではなく、広域避難時の避難スペースや、東部地区・大原周辺の防災拠点としての活用を想定しています。津波警報の状況に応じた避難行動を基本とし、それ以外の災害に対応する拠点機能として整備していく考えです。なお、シェルター整備の意義については、国民保護計画に基づくものであり、今後あらためて説明する機会を設けたいと考えています。</p>

<p>(白浜公民館)</p> <p><b>分散型避難計画の今後の方向性について</b></p> <p>大原庁舎を防災拠点とする中で、他の島々や西表島東部・西部、鳩間、船浮などを含めた分散型の避難計画について、今後の考え方を教えてください。</p>	<p>(佐加伊防災危機管理課長)</p> <p>現在、竹富町全体の防災計画はありますが、島ごと、地域ごとに地形や環境が異なります。今後は、それぞれの地域の特性に応じた個別の防災計画を作成していく必要があると考えており、その取り組みを進めていきます。</p>
<p>(白浜公民館)</p> <p><b>施設の維持管理費と町財政への影響について</b></p> <p>大原庁舎の年間維持管理費が約 2,600 万円と聞いています。他の施設も含め、町の財政負担が増えていくことが懸念されますが、今後の考えを教えてください。</p>	<p>(前泊町長)</p> <p>維持管理費は必要なものと考えていますが、町の財政に過度な負担とならないよう、抑制できる部分は抑えながら運営していきます。世界自然遺産センターについては協力金を運営費に充てることも検討しており、大原庁舎のシェルター機能に伴う維持管理費について</p>

	<p>ては、国に対し財政支援を要請していきます。今後も町全体の財政状況を見極めながら、適切な運営に努めていきたいと考えています。</p>
<p>(小浜公民館)</p> <p><b>①住民説明会の今後の開催について</b></p> <p>今回の説明会は今回限りでしょうか。それとも今後も説明会を重ねて開催する予定でしょうか。</p> <p><b>① 説明会内容の周知および議事録の公開について</b></p> <p>本日の説明会内容や質疑について、参加できなかった町民にも分かるよう周知していただけますか。</p>	<p>(前泊町長)</p> <p>今回は基本設計の段階で、金額や建物の概要が見えてきたため説明会を開催しました。参加状況も踏まえ、今後は必要に応じて説明会を開催するなど、柔軟に対応していきます。</p> <p>議事録を作成し、町ホームページなどを活用して周知していきます。</p> <p>今後はアーカイブ配信なども含め、多くの町民が確認できる方法を検討します。</p>
<p>(東部地区)</p> <p><b>重要書類および電子データの保存・管理</b></p>	<p>(前泊町長)</p> <p>重要な機械設備については、すでに総</p>

<p><b>体制について</b></p> <p>地震や津波など、事前の備えが難しい災害に備え、行政の継続性を確保するため、長期保存が必要な重要書類が高台に適切に保管されているのか教えてください。また、コンピューターや電子データが被災した場合に行政機能が麻痺するおそれもあります、それらへの対応や訓練についてどのように考えていますか。</p>	<p>務課を中心に、できる限り上階に整備を進めています。また、1階にある課の中でも、永久保存が必要な重要書類については、順次最上階へ移動し、適切に管理できる体制を整えています。紙のみでの保存に頼らず、重要書類は電子化し、データとして保存する取り組みも進めています。災害はいつ発生するかわからないため、スピード感を持って対策を進めていきたいと考えています。</p>
--	---

## 6.閉会

花城政策推進課長補佐より閉会の挨拶